

# 食物アレルギーの発症機序からみた現在と将来の 治療 即時型食物アレルギー疫学調査

出典	日本小児アレルギー学会誌 (0914-2649) 18 巻 1 号 Page53-58 (2004. 03) ( <a href="http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005200941">http://search.jamas.or.jp/link/ui/2005200941</a> )	
著者	今井孝成	
調査地域	1996 年、1997 年 : 記載なし 1998~2002 年 : 日本全国	
調査時期	1996~2002 年	
調査対象	1996 年 : 保育園 (0~6 歳) 1997 年 : 3 歳~大人 1998~2002 年 : 平均 6.7±13.1 歳 :	
有効回答数	1996 年 :	1348 人
	1997 年 :	3036 人 (3 歳) 4557 人 (小学校 1 年生) 4775 人 (小学校 5 年生) 4234 人 (中学校 2 年生) 3132 人 (大人)
	1998~2002 年 :	1420 人
診断方法	1996、1997 年 : 記載なし 1998~2002 年 : 医師診断 (アレルギー検査)	
有症率	1996 年 : 12.6% 1997 年 : 6.2~9.3% 1998~2002 年 : 記載なし	
調査概要	食物アレルギー対策検討委員会により平成 8~14 年度に行われた食物アレルギーの疫学調査についてまとめた論文。これをもとに食品表示に関する表示に関する食品衛生法が改正された。	